



復秋寄高三千五百余

八千房撰

ごこと社

納秀逸

水ゆれそくあり州おるくし  
 緑川人やあもあくるちき  
 夕月やあやう植一回のけり  
 帯うら日おあかふるお氣う那  
 義ぬけそ好焼くさふるいさこふ  
 居ありて田植取まぬ枝乃ち  
 麻衣のあまふむに早さう那  
 笑うけて日うけもまふに 牡丹  
 じゆきさきさきあへり天津屋  
 参りて酒出以菊おけりうの  
 夕立や門はあつと一回一枝  
 好中一のそろを挿す申かう那  
 引うら人の入るおのあまうふ  
 賑しい四一さくさく 新の象  
 毛を森も七ね月うあると 牡丹

遠竹 及迄 不買 烏白 逢竹 其有 不後 本以 古来 茂南 校光 稗白



華もあはれ是の経るく好まらう  
 輝つゆりし秋の葉もはらさ  
 清らに秋の葉もはらさ  
 何れも秋の葉もはらさ  
 海原や何れも秋の葉もはらさ  
 月の出るも秋の葉もはらさ  
 伊れふも秋の葉もはらさ  
 佛も秋の葉もはらさ  
 好連も秋の葉もはらさ  
 ひさの秋の葉もはらさ  
 相の秋の葉もはらさ  
 稿書も秋の葉もはらさ  
 人語も秋の葉もはらさ

綿 不 綿 不  
 妙 買 破 有  
 古 古 古 古  
 寺 寺 寺 寺  
 山 山 山 山  
 古 古 古 古  
 坊 坊 坊 坊  
 眠 眠 眠 眠  
 舟 舟 舟 舟

復秋寄高三千五百余

大黒菴撰

ざこむ社

去邊路の末を  
 牙二軒より  
 奴といは師の  
 夫時しを  
 簾一の  
 肩の  
 人  
 末  
 柳の  
 野の  
 名  
 名

出 岳 樂 烏 墮 光 古 池 山 野  
 雲 雪 山 白 舟 山 岳 竹 竹 山



船小人等... 燈の... 七夕の鞠蹴色... 中... 月乃出... 子... 多... 好... 海

馬 共 杖 馬 東 艾 逢 珍 共 杖 吉 二 馬 艾 古  
白 山 竹 白 西 山 赤 砂 山 宅 宅 宅 宅 宅 宅 宅 宅

復秋寄高三千五百余

清得舎評

ぎこむ社

油 一 移乃... 通... 二... 白... 交... 聖... 風... 大... 燗... 名... 人... 子... 二日月

馬 共 杖 馬 東 艾 逢 珍 共 杖 吉 二 馬 艾 古  
白 山 竹 白 西 山 赤 砂 山 宅 宅 宅 宅 宅 宅 宅 宅



附書消ゆ〜物はたしくしうたカ士鵬  
 晴光似を〜も佛〜や 果子を  
 山里やむらこの〜の築結取  
 青梅〜女の孫扁と〜けり 月  
 草を振返り〜と持て色り 茶  
 畝の堂子又〜〜〜小思ひり  
 夕影の傾ま〜い〜子の家  
 筆風〜約鐘舛お〜り  
 満月〜一程を好の〜と  
 丘の精の〜を月小並〜り  
 幸〜〜中〜も〜り 非室  
 和雪〜中〜や〜〜り 花  
 卯花の〜や山を〜り  
 神鏡〜〜〜ぬ 極 乙 女  
 菊車〜〜家の吉〜を〜て頃

松 其 其 錦 高 枝 石 古 枝 鶯 茶 月 古 鵬  
 月 石 桃 文 生 三 丸 乐 宅 舟 袋 休 乐 白